

「福井市の観光による交流人口増大の提案」



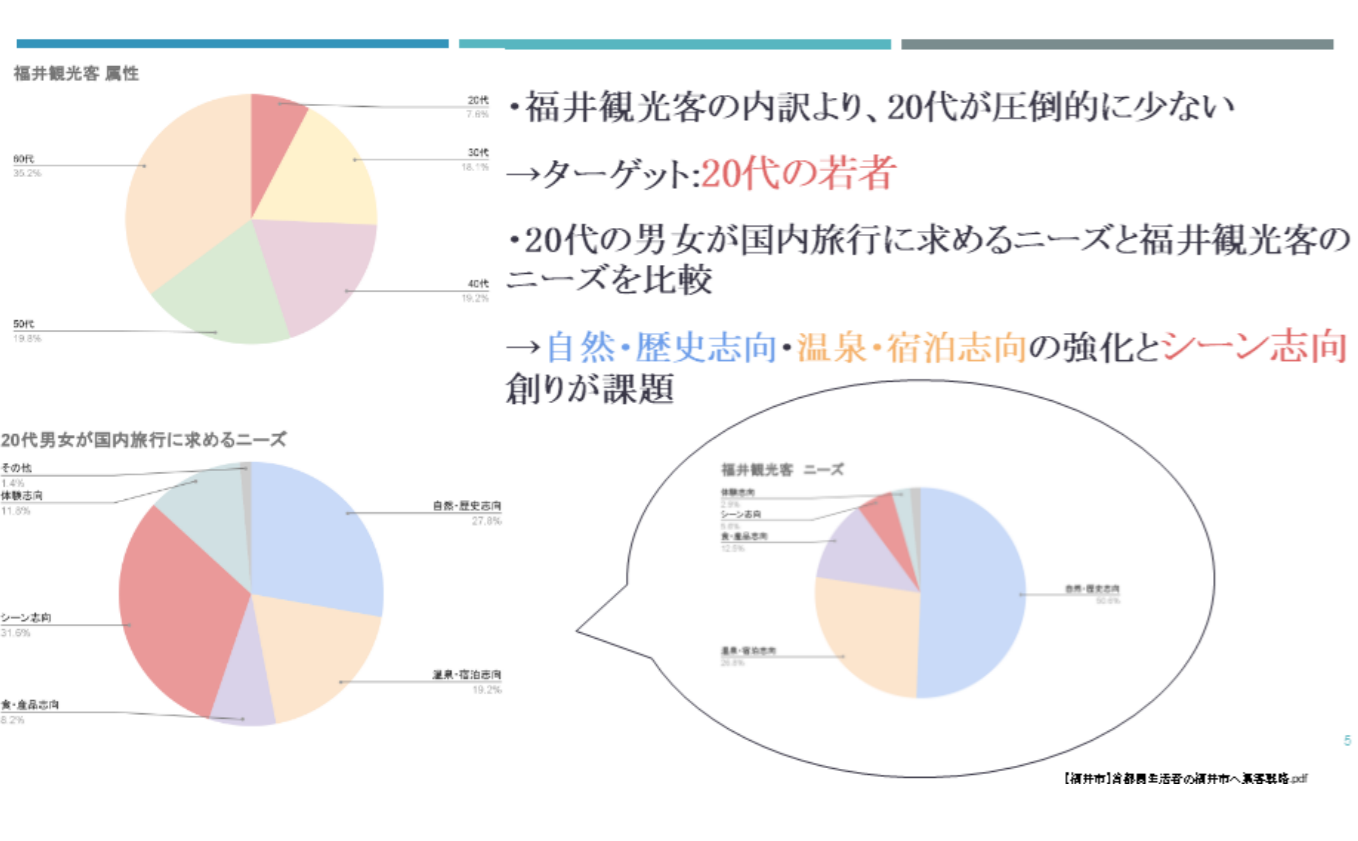
ビジネス学部 野沢誠治 野沢ゼミ3年

【目的と概要】

本学と2017年に連携協力に関する協定を締結している福井市では、多くの地方地域と同様、定住人口減少による地域経済の衰退という課題を抱えている。一方、福井市では、2024年に北陸新幹線福井開業や2026年に中部縦貫自動車道全線開通が予定され、県内外から多くの人を福井に呼び込むチャンスがあり、このチャンスを最大限に利用し観光による交流人口の増大が大きな課題となっている。

そこで、野沢ゼミでは、ゼミナールの専門的な学修（マーケティングとデータ分析）と培ってきたリーダーシップスキルを実践に移すべく、観光客のニーズや観光客を増やすための本質的課題を明確にし、その課題を解決するための具体的な施策を学生ならではの発想を含めて提案することとした。

【プロジェクト内容・結果】



20代の若者をターゲットに

ペルソナ 中村 菜々

年齢:21歳
性別:女性
血液型:O型
居住地:三鷹市(実家住み)
職業:大学生、女子大(通学時間70分)
所得:8~9万円/月
家族構成:父、母、姉

- 写真サークル(月1活動、高校元写真部)、旅行頻度は高め
- UNIQLOでアルバイト
- 服装はUNIQLO無印系、バッグはトートバッグ愛用、たまに黒縁眼鏡
- 交友関係は深く、中でも同性の友達多い、周りの友達明るい、聞き役
- 平和主義で人から好かれる
- 心配性
- 面倒くさめや(1限の日たまにメイクしない、paypay利用しがち)
- 普段は節約家(お弁当、水筒持参)、こだわるものにはお金をかける
- 隠れプライド高い、隠れ負けず嫌いな
- 好奇心旺盛(グランピング興味ある 夏は花火、冬はイルミネーションが見たい、フェスいきたい、スタバ新作)
- 周囲の環境に流されやすい
- 自己解決派

ターゲットのペルソナ*を設定

* サービス・商品の典型的なユーザー像

共感マップ

Think and Feel
思っていること、感じていること

Hear
聞いていること

See
見ているもの

Say and Do
言っていること、行動

Pain
痛みやストレス

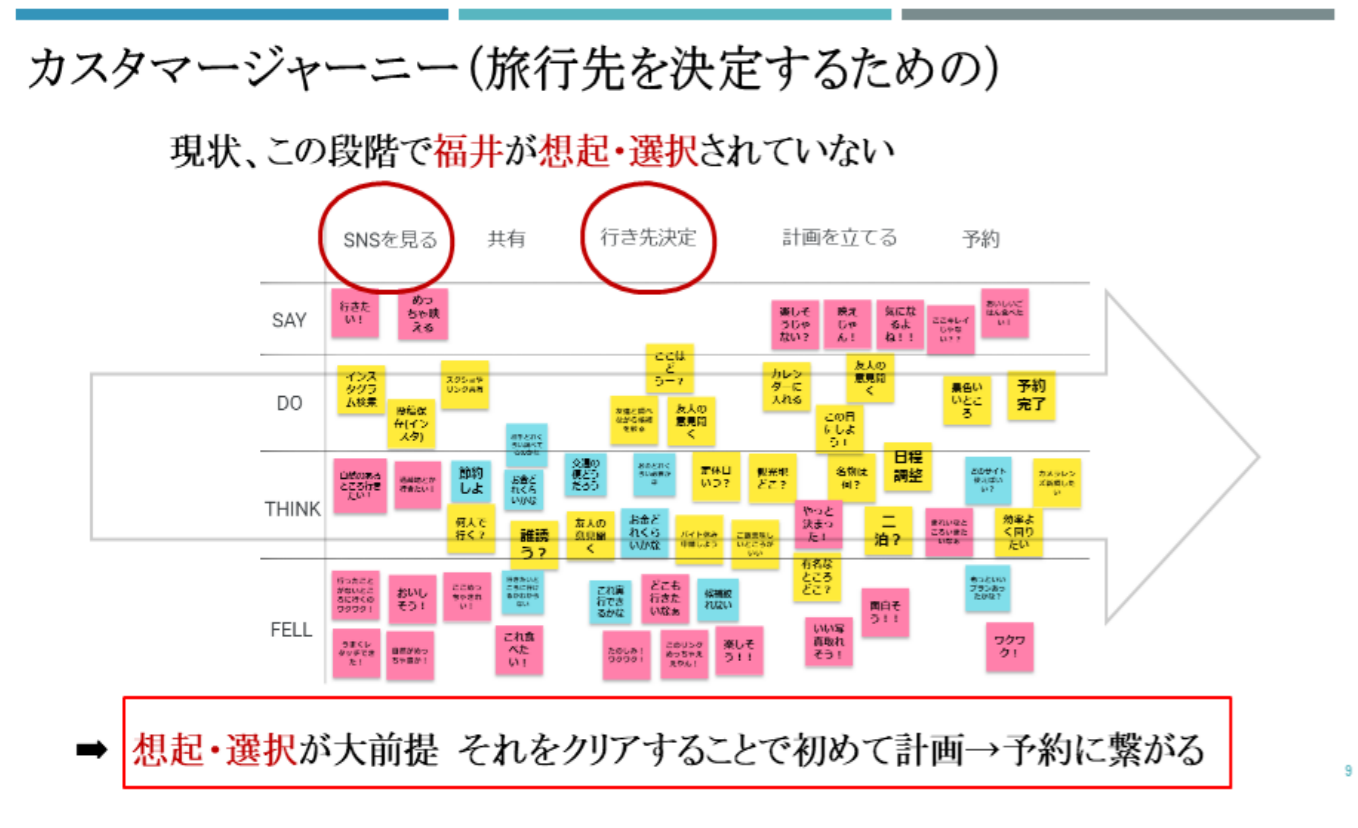
Gain
得られるもの

移動手段に極力お金をかけたくない
人気・有名観光地はもういいなあ
調べるの、準備面倒くさい
普段の生活に刺激があまりない

学生限定のお得なプランを利用したい
地元の人のおすすめを知りたい
移動手段のお得プランがほしい
非日常を体験できる場所
写真を撮りたくなる場所

ペルソナの共感マップ**を作成

** ユーザーを視覚化するために活用できるツール



本質的課題

(旅行先として想起・選択されないこと)

想起 選択 影響力

福井の公式INSTAGRAMにて魅力を最大限に伝える

現在の福井県観光連盟のInstagram

- 目を引くような画像
- ハッシュタグの活用
- × 引用ばかりで独自の投稿が見られない
- × 観光地の詳細が記載されていない
- × 撮影場所が分からない

改善点

- ・地元民だからこそ伝えられる情報を記載する。
- ・詳しい経路や料金などをキャプションに記載する
- ・動画などを挿入しリアルを体験してもらう
- ・まとめなどを作り観光のしやすさを伝える
- ・ストーリーズを活用して手軽に閲覧できるようにする

想起されるための施策

想起 選択 影響力

U30 選べる食事・体験付きレンタカーパック

- ・1泊2日2人以上で利用できる30歳未満限定のサービス
- ・2人で15000円(2,000円増/1人増)
(人数が増えるごとに料金も増加するが、人数が多くなるほどお得になるシステム)
- ・2日間のレンタカー貸し出しに加えて、選べるお食事チケットと体験チケットがついてくる

選択されるための施策

【まとめと考察】

本プロジェクトでは、3年ゼミ生が二つのチームに分かれ、1年間を通してデータ収集やその分析により本質的課題を捉えながら解決策を検討してきた。物事を客観的にとらえるためのRESAS（内閣府が提供する地域経済分析システム）の活用、観光客のニーズや不満を明確にするためのペルソナ分析や共感マップ及びカスタマージャーニーは、なぜ福井を観光地として選択しないかという本質的な課題を明確にすることに役立った。1月の最終発表では、福井市の方々に加えて、NHK、日刊県民福井、福井新聞のメディアの方々も参加され、質疑を通じて活発な議論ができた。今回の地域連携プロジェクトを通じて、ゼミの学生は、リアルな社会課題を解決することの難しさを感じながらも、学修した知識やスキルが社会課題の解決に役立てられたことや発表までの様々な困難をチームで乗り越えられたことを経験し、自身の成長に大きく寄与できたと感じている。

【謝辞】

本プロジェクトの遂行にあたり、福井市のおもてなし観光推進課、新幹線プロモーション課、東京事務所の皆様に大変お世話になりました。この場を借りて深く感謝申し上げます。また、社会連携センターをはじめ、学内のご関係者の皆さまに多大なるご支援を賜りましたこと深く御礼申し上げます。